

○アブストラル舌下錠 [内]

【重要度】 【一般製剤名】 フェンタニルクエン酸塩 fentanyl citrate 【分類】 癌疼痛治療剤 [フェンタニル]

【単位】 ○100 μg ・▼200 μg ・▼400 μg /舌下錠

【常用量】 ■開始量：1回 100 μg

■用量調節期：100, 200, 300, 400, 600, 800 μg の順次一段階ずつ調節して至適用量を決定 [1回の突出痛に対してフェンタニルとして1回 100~600 μg のいずれかの用量で十分な鎮痛効果が得られない場合には、投与から30分後以降に同一用量までの本剤を1回のみ追加投与できる]

■維持期：1回の突出痛に対して至適用量を1回投与することとし、最大1回 800 μg [前回の投与から2時間以上の投与間隔をあげ、1日あたり4回以下の突出痛に対する投与にとどめる]

【用法】 舌下投与（水なしで服用）

■舌下の奥の方に入れて自然に溶解させ、舌下の口腔粘膜から吸収させる

■飲み込んでも1回投与と計算する

【透析患者への投与方法】 代謝・排泄が遅延し、副作用があらわれやすくなるおそれがあるため慎重投与（1）であるが減量の必要なし（5）

【保存期CKD患者への投与方法】 代謝・排泄が遅延し、副作用があらわれやすくなるおそれがあるため慎重投与（1）であるが減量の必要なし（5）

【特徴】 フェンタニルの速効性製剤で、がん性疼痛管理での突発痛に用いるレスキュー製剤。 μ オピオイド受容体のアゴニスト。 強オピオイド使用例のレスキュー限定。

【主な副作用・毒性】 フェンタニル参照

【F】 約50%（1）

【tmax】 0.5~1hr（1）

【代謝】

【排泄】 P-gpの基質（1） BBBの通過にはOATPが関与（1）

【t1/2】 6~13hr（1）

【蛋白結合率】

【Vd】

【MW】 528.59

【透析性】

【OW係数】

【相互作用】 フェンタニル参照

【肝障害患者への投与方法】

【小児CKD患者における報告】

【妊婦・授乳婦への投薬】

【主な臨床報告】

【更新日】 20220502

※正確な情報を掲載するように努力していますが、その正確性、完全性、適切性についていかなる責任も負わず、いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし、それらを利用した結果、直接または間接的に生じた一切の問題について、当院ではいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は、日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。